

## 甲府市障害者センター支援チャリティーゴルフコンペ

2025年11月2日(日) 甲府市障害者センター支援チャリティーゴルフコンペを、昇仙峡カントリークラブにて開催しました。当日は80名が参加、多くの皆様のご協賛・ご支援に心より感謝申し上げます。チャリティーゴルフコンペにて集まりました支援金32万円は、甲府市障害者センターへ寄付させていただきました。



## 子ブタたちはどう生きたのか？

今年9月、「子ブタたちはどう生きたのか〜ぶうふうう農園の7か月」という書籍(岩崎書店)が発刊されました。山梨県韮崎市(茅ヶ岳の裾野)で放牧養豚を営んでいる中嶋千里さんの農場を、朝日新聞記者の太田匡彦さんが度々訪問して本に著しました。(※1)

中嶋さんの農場では、子ブタが生まれてから出荷されるまで、広々とした野外の農場で“放し飼い”にされ伸び伸びと育ちます。(※2)中嶋さんは「人間の都合で食べるのだからこそ、生きている間は幸せに過ごさせてあげたい」との想いで、この40年あまり“完全放牧養豚”に取り組んできました。

中嶋さんは言います。「日本の一般的な養豚場では、そもそも子ブタを豚舎から出しません。子ブタたちは狭い豚舎の中で、太陽の光を浴びることなく、土を踏む経験もせず、短い一生をコンクリートの上だけで過ごします。そんなんでいいわけがない。僕はできるだけ、自然な環境で育ててあげたいんです。」

私たちがスーパーの店舗や肉屋さんで購入する豚肉の大半は、一生を狭い豚舎のオリの中で飼育されたブタから得られたものです。(※3)中嶋さんは「あれは、いかに効率よく利益をあげるかを追求してできあがった飼育方法。動物のことは全く考えていない」と批判します。人間が飼育し利用する動物について、なるべくストレスをかけないよう、その動物本来の生態に十分に配慮した飼育方法をめざすのが「アニマル・ウェルフェア」(動物福祉)という考え方です。

例えばEU(欧州連合)では、養豚に関するアニマル・ウェルフェア規制が厳格に定められており、特に妊娠ストール(檻・おり)の使用制限や群飼育の義務化が重要なポイントです。加盟国によってはEU基準を超える独自規制も存在します。わが国でも、農林水産省が「アニマル・ウェルフェアに関する飼養管理指針」といったガイドラインを策定していますが、EU基準よりもかなり緩い内容に留まっています。

また、わが国の養豚業では2024年時点で妊娠豚の90%以上がストール飼育であり、EUで禁止されているような“個別拘束飼育”が主流です。(※4)ふだん私たちは、日々食べる肉や卵などの畜産食品について、それを提供してくれた豚や牛、鶏などの家畜がどのように育てられたかを意識することは殆どありません。

家畜を快適な状態で飼育することは、その健全な生育を助け、抗生物質など薬剤の使用を減らし、安心安全な食材を提供することにもつながります。私たちが食べる畜産食品が、どのように飼育された家畜から提供されたものなのかに関心を抱く人々が、もっと増えてほしいと思います。(※5)



(※1) PR TIMES 新刊情報「きみたちは、いのちをどう受けとめる？」子ブタたちが生まれてから豚肉になるまで  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000402.000035751.html>



(※2) 豚たちが自由に遊びストレスフリーな「放牧養豚」(動画)  
<https://www.youtube.com/watch?v=GeUkEFNyE4A>



(※3) がんばる！畜産！1豚肉ができるまで(動画・中央畜産会)  
<https://www.youtube.com/watch?v=nE6d1A3FyNg>



(※4) 母豚の一生〜振り返ることもできない檻「妊娠ストール」に収容され続ける  
<https://www.hopeforanimals.org/pig/233/>



(※5) 小学生にもわかる、アニマルウェルフェア  
<https://kids.tomosta.jp/column/973/>

今後の予定

人権啓発パネル展 12月3日(水)～12月16日(火) 甲府市北公民館、甲府市南公民館にて、人権啓発パネル展を開催します。

人権移動教室 11月29日(土) 甲府市立上条中学校、12月18日(木) 甲府市立甲運小学校、12月19日(金) 甲府市立湯田小学校にて、人権移動教室を開催します。

活動報告

人権啓発パネル展 11月6日(木)～11月19日(水) 市立甲府病院、甲府市中道公民館において、人権啓発パネル展を開催しました。

人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ  
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史  
理事長：横山美香

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1階事務室  
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. [yamanashi@yihrc.or.jp](mailto:yamanashi@yihrc.or.jp)

<協賛>  
山梨県  
甲府市  
甲斐市

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

甲府市立玉諸小学校女子

玉諸小学校

人権教室の話聞いて

わたしは、人権という意味をあまり考えたことがなくて、分かりませんでした。でも、杉とう先生の話聞いて、人権は自分の命や幸せを守るための権利ということが分かりました。戦争などの災害で苦しんでいる人たちのために、MSFという国境なき医師団が命をかけて他人の命を助けていることを初めて知りました。命がけて助けられるのは、すごいことだと思います。わたしたちが、毎日、くらしやすく、あたりまえだと思っっているこの環境は、わたしたちの知らないところで助けてくれているからだと、うことが分かりました。食べ物を食べられるのも、きれいな水を飲めるのも、周りの人たちが助け合っているからというのを改めて知りました。これからは、わたしも、一人一人のことを大切に思っ、ていきたいです。また、こまっ、ている人がいたら勇気を出して助けていきたいです。

甲府市立玉諸小学校女子

人権のお話しを聞いて

わたしは、お話を聞いて人権の大切さを知りました。最初は言葉だけは知っ、ていたけど、あまり深く考えたことがなかつたので人権について考える良い機会になっ、て良かったです。わたしは、「人権」と聞いてむずかしく考えていたけど、あたりまえなことなんだなと思っ、ていました。みんなが幸せにくらするためには、思いやりが大切だと思います。すぎとう先生が言っ、ていたように、考えていても行動できなければいけないし、実際に自分が体験してやることで分かることもあると思うので、わたしもちゃんと考えてみようと思います。そして、物事を自分の立場として考えることで、思いやりをもつことができると思います。何回もチャレンジして、体で覚えられるようにがんばりたいと思います。そして、外国などの所でこまっ、ている人達を助けている人に感謝し、支え合っ、て生きていきたいと思っ、ています。